



亀中だより

No.25 令和6年10月30日 文責 岡田



For The Students!

11月は「いじめ防止強化月間」です！

三重県では、平成30年に「三重県いじめ防止条例」を施行し、学校、家庭、地域が相互に協力しながら、いじめ防止、早期発見・早期対応をめざした取組を推進しています。毎年4月と11月を「いじめ防止強化月間」としており、11月の強化月間では、亀山中学校でも生徒一人ひとりが自らの行動を考える機会として、人権や道徳の学習とも関連付けながら、毎年取り組みを行っています。



生活委員会によるピンクシャツ運動



生活委員会では、11月にピンクシャツ運動に取り組む予定です。各学級でいじめ防止の願いを込めたメッセージを書き込んだピンクシャツ掲示を作り、各教室前等に掲示していきます。一人ひとりの「願い」が「行動力」となって、いじめ防止へとつながってほしいものです。

亀山中学校では、「いじめ防止基本方針」を策定し、これに基づいて取り組みを行っています。学校のいじめ防止の取組として、定期的なアンケート調査や個人面談、スクールカウンセラーなどによる相談体制の充実、道徳教育・人権教育の充実、子ども支援グループや警察・児童相談所との連携などがあります。しかしながら、SNS を介したいじめ事案に見られるように、いじめの構造はどんどん複雑化、不透明化してきています。生徒、保護者のみなさんも、心配事などがありましたら、いつでも学校までご相談ください。

なお、ピンクシャツ運動の由来について裏面に記載いたしました。

「察する力」とそれからはじまる行動を…

生徒のみなさんへ

あなたの身の回りにいじめ等で苦しんでいる人はいませんか。「助けて」といえずに困っている人はいませんか。

この問いにもし、あなたが「いない」と答えるなら、それは間違っているかもしれません。「学校風土調査」では、この2～3か月の間に「いじめられたことがある」と回答した生徒は、たった一度の出来事も含まれているものの、実に20%もありました。この調査は無記名で行われたので、いじめアンケートでは答えられなかった出来事が実はあったと考えるべき数字ではないでしょうか。そして実際に、アンケートでは答えられなかった苦しかった経験を打ち明けてくれた生徒もいます。

亀山中学校は、いじめを絶対に許さない学校でなければならないし、いじめ防止強化月間を名前だけのものにするわけにはいきません。そのために何が必要か、それは臨時全校集会で話した「察する力」です。察するとは「人の気持ちを推し測り、思いやること」、隠れて見えない事情を感じ取って行動することです。社会や集団の中で生きていくためには、この「察する」という力は不可欠ではないでしょうか。察する力とそれから始まる行動が、いじめられている人に気づき、そして守ることになるでしょう。また逆に、いじめてしまっている人、間違いをおかしている人が自分の過ちに気づき、その行動に終止符を打つ、再出発をする力にもなっていくでしょう。ピンクシャツ運動としてカードに書いた決意を忘れることなく、「察する」ことができるように、そしてそこから始まる行動ができる人に…。期待しています。



ピンクシャツ運動の始まり

それは、カナダの学生が起こした行動に由来します。

舞台は 2007 年、カナダ・ノバスコシア州のハイスクールです。9 年生（中学 3 年生）の男子生徒がピンク色のポロシャツを着て登校したことをきっかけに、ホモセクシャルだとからかわれ暴行を受け、たえきれずに帰宅してしまいました。その出来事を聞いた上級生のデイヴィッド氏とトラヴィス氏。12 年生（高校 3 年生）の彼らにとっては、その学校で過ごす最後の年でした。

「いじめなんて、もう、うんざりだ!」「アクションを起こそう!」

そう思ったふたりは、その日の放課後、ディスカウントストアへ行き 75 枚(*)のピンク色のシャツやタンクトップを買いこみました。そしてその夜、学校の BBS 掲示板やメール等を通じてクラスメートたちに呼びかけました。「明日、一緒に学校でピンクシャツを着よう」と。

翌朝、ふたりはピンク色のシャツやタンクトップを入れたビニール袋を手に登校しました。学校について校門で配りはじめようとしたふたりの目に映った光景・・・それはピンクシャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。ピンクシャツが用意できなかった生徒たちは、リストバンドやリボンなど、ピンク色の小物を身につけて登校してきました。頭から爪先まで、全身にピンク色をまとった生徒もいました。

ふたりの意思は一夜のうちに広まっていたのです。

ふたりが呼びかけた人数より遥か多く、数百人もの生徒たちがピンクシャツやピンク色のものを身につけ登校してきたことで、その日、学校中がピンク色に染まりました。いじめられた生徒は、ピンク色を身につけた生徒たちであふれる学校の様子を見て、肩の荷がおりたような安堵の表情を浮かべていたそうです。以来、その学校でいじめを聞くことはなくなりました。

いじめに対して、学生たちは言葉や暴力ではなく行動で意思表示をしようと立ち上がったのでした。

カナダの学生たちが起こした行動が地元メディアで取り上げられると、瞬く間にカナダ全土へと広がり、アメリカのトークショーやスペイン最大の新聞でも紹介されるなど世界へと広がっていきました。メディアで彼らのことが紹介された翌日には、アメリカ、イギリス、ノルウェー、スイスから彼らの元へ多数の賞賛や感謝を伝えるメールが届いたといい、大きな反響が伺えます。この行動がきっかけとなり、現在、カナダでは毎年 2 月最終水曜をピンクシャツデーとし、この日、学校・企業・個人を含めた賛同者がピンクシャツを着て「いじめ反対」のメッセージを送っています。

保護者のみなさまへ…

いじめ防止の対応として、学校で生徒から聞き取りを行う場合があります。事態の緊急性への対応や情報の精度を高めるために、やむを得ず授業中に聞き取りを行うこともあり得ますこと、あらかじめご了承ください。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。